

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100153
法人名	日本ケアシステム株式会社
事業所名	グループホームよろこび
所在地	松山市堀江町甲2082－1
自己評価作成日	平成26年 6月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が近く、自然に恵まれた場所にあるグループホームです。ゆったりとした暮らしの中でのよこびを感じられるように外出行事を多く取り入れるように努めています。 職員は入居者様の表情や状態を観察し不安の解消や休息が取れるように心がけ介護を行うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●近隣の他グループホームとは、夏祭りや運営推進会議を通じて交流を続けており、利用者同士で顔なじみになった方もいる。受診帰りに、ポストの郵便物を取りにご自宅に立ち寄ったり、祭り時には、ご家族に時間を教えてもらって、自宅のある地区のだんじりのかきくらべ見物に出かけられるよう支援したケースもある。ご自宅のある地区の町内会長が敬老会の記念品を届けてくれたり、気にかけてくれており、話しに立ち寄ってくださることもある。1月には、氏子の方が多い神社に初詣に行き、神主さんから、「この方には昔お世話になった」と言葉をかけてもらい、たいへん喜ばれた方もあった。 ●レクリエーション担当の職員が利用者の希望を聞きながら、毎月2回程度外出できるよう計画を立てておられる。1対1で対応し、数名ずつ交代で外出されている。季節の花の鑑賞やぶどう狩り、花火見物や河川敷のいも炊き、動物園等にも出かけられた。ドライブの途中で発見した滝に興味を持った方があり、次回は、その滝に行ってみることになっている。好みのドリンク剤が買えるドラッグストアへ買い物に出かけたり、うどんがお好きな利用者が多く、うどん店で外食したり、道の駅におやつを食べに行くこともある。会話がきっかけで蛸鑑賞に出かけた際には、手にとまる蛸を見て、「何十年ぶりかな」と喜ばれたようだ。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームよろこび

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

金澤 大輔

評価完了日

平成 26年 6月 16日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 笑顔という介護理念を常に心がけ入居者様に接するように している。また、グループホーム内外に係らず挨拶の徹底を 行っている。	
			(外部評価) 法人理念「笑顔」を事業所の理念としても掲げており、居間、 事務所の皆が見やすい位置に、大きく書いて掲示されてい る。管理者は、理念を実践につなげられるように、行動指針 の作成を検討されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 町内会に加入しており回覧板を入居者と一緒に回しに行っ ている。また昨年度より納涼祭を実施し地域の方や運営推 進鍵に参加していただいている方々を招いている。 まもる君の家の設置にも協力している。	
			(外部評価) 併設の系列デイサービスや介護付き有料老人ホーム等と合 同で、定期的にボランティアによるマジックショーやバレーン アートショー等が催されており、地域の方やご家族も誘って 一緒に楽しまれている。公民館で行われる地域主催の作品 展時には、利用者数名で出かけ、地域の方達の作品を見て 回ったり、一緒に体操等して交流された。管理者は、「次回 は、俳句のお好きな方の作品を出展したい」と話しておられ た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や回覧板を通して地域の情報を得て入居者 様の状態を考慮しながら出来る限り地域行事に参加できるよ うに努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 運営推進会議に参加参加していただいている地域駐在所 やボランティアの方、他事業所の職員にサービスに対する意 見を聴衆しサービスも質の向上に努めている。 また地域の防犯防災情報なども得ている。	
			(外部評価) 会議は、平日の午後で開催されており、町内会長、民生委員をはじめ、堀 江駐在所、地区まちづくりコミュニティ生活安全部の担当者、近隣グループ ホーム職員等が参加されている。ご家族は都合等もあり、今年度の参加は ないが、毎回、事業所から会議記録を送付されている。会議では、はじめに 利用者の状況や行事報告を行い、その後、皆で意見交換しており、生活安 全部の方からは、地域の行事案内や交通安全・盗難等についての情報提 供等がある。他グループホーム職員は、外出先の情報や行事時の準備の 工夫等、ホームでの取り組みを紹介してくださっている。	会議のすすめ方については、職員会時に話し合った意見や 運営推進会議メンバーからのアドバイス等も採り入れなが ら、取り組んでいきたいと話しておられた。会議を活かして地 域とのネットワークを広げ、助け合えるような関係を築いてい かれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会議に市町村職員に参加していただき感染症や 現在注意すべき事項について指導をいただいている。また 不明な点があれば電話にて質問相談したりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、市の介護保険課の担当者や地域包括 支援センター、市社会福祉協議会の方が参加されている。 その際には、介護保険課の方からは、感染症や熱中症につ いての注意や情報提供があり、外部評価実施後作成する目 標達成計画の取り組みも、報告してほしいと話があった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はフロアーに必ず職員がいるようにし夜間以外は施錠 しないようにしている。また職員会義等で身体拘束に関する 勉強会を実施し職員間で共通認識できるように努めている。	
			(外部評価) 玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。職員が居間から離 れる場合は、行き先を言ってその場を離れることを申し合わせておられる。 帰りたい気持ちで落ち着かない利用者には、以前に利用していた併設デイ サービスを訪ねてみたり、近くの海まで出かけて気分転換できるよう支援さ れている。時には、バス停やJR駅まで行ってみることもあるが、乗り物を待つ 間に、利用者から「明日にしよう」と言われるようで、納得して事業所に戻ら れるようだ。管理者は、日頃から、「緊急度に応じて優先順位を考えるよう に」と職員に話しており、利用者に待ってもらふような時は、職員の事情を説 明されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は心にゆとりがないと虐待に繋がると考えており、職員会義等で業務を優先するのではなく入居者様への対応をゆとりを持って対応するように話をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は成年後見制度や権利擁護について学んでいるが、職員に対する勉強会は行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書に沿ってゆっくり丁寧に説明している。専門用語などは分かり易い言葉に置き換えたり事例などを交えて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者は家族様が面会に来られた祭に話す機会を設け現状報告し家族様から要望や意見をいただいている。また身体状況や内服薬が変更となった場合家族様に連絡報告するようにしている。 (外部評価) 毎月、利用者別に作る便りには、、外出・行事の様子を写真入りで紹介し、コメント欄には個々に体調や最近の様子を記入されている。遠方の方や足遠くなっているご家族には、管理者がこま目に電話連絡されている。協力医療機関が24時間対応できるようになったことを受け、6月の「家族会」時には、重度化した場合、事業所でできる事や緊急時の対応方法等について説明された。その後は、皆でそうめん流しを一緒に楽しまれた。来年度は、家族会を年に2回実施する計画になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			(外部評価)	
			利用者の状態や習慣について職員が気になることがあれば、ケアの工夫について話し合っ取り組みにつなげておられる。現在、職員研修はあまり取り組みが進んでいないが、管理者は今後、「身体拘束」「看取り」等、テーマを決めて定期的に研修を実施していきたいと話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族様と本人様に見学していただき、大まかな1日 の生活の流れを説明している。協力病院や緊急時の対応を 説明し不安や不明な点を解消できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面接時に在宅でどのような生活をしていたか、趣味 等を聞き入居後の生活や介護に活かせるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 職員は入居者様一人ひとりの特徴を活かすように努力し入 居者様の気分や状態を観察しながら共に生活して行くように 努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が面会に来られた際には生活状況を話すようにして いる。また問題等があった場合家族様と一緒に話し合う機会 を設け解決していけるように努めている。遠方に住まわれて いる家族様には、メールで状況報告を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) グループホームで外出する際には入居者様の馴染み場所 にすることが多い。また入居者様の地元のかたが面会に来ら れたり友人と文通している入居者様もいらっしゃる。 (外部評価) 近隣の他グループホームとは、夏祭りや運営推進会議を通 じて交流を続けており、利用者同士で顔なじみになった方も いる。受診帰りに、ポストの郵便物を取りにご自宅に立ち 寄ったり、祭り時には、ご家族に時間を教えてもらって、自宅 のある地区のだんじりのかきくらべ見物に出かけられるよう、 支援したケースもある。ご自宅のある地区の町内会長が敬老 会の記念品を届けてくれたり、気にかけてくれており、話しに 立ち寄ってくださることもある。1月には、氏子の方が多い神 社に初詣に行き、神主さんから、「この方には昔お世話に なった」と言葉をかけてもらい、たいへん喜ばれた方もあつ た。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が入居者様間の関係を把握するように努力している。レクリエーションや手伝いなど入居者様職員が個々で支え合いより良い介護ができるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても必要に応じて相談や支援が行えるように努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族様から本人様がどのような生活をされていたかや好きな事等を情報収集し介護に活かすように努力している。また日常の会話や表情などから気持ちを汲み取るように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの表情をよく見て対応しており、ウトウトする方には、居室で横になって休めるよう声をかけたり、意欲のある方には、好みに合わせて活動できるよう誘う等して支援されている。お若い頃、バレーボールをしていた方がいることから、レクリエーション時にレクバレーを採り入れたり、俳句のお好きな方がいることから、子規記念博物館に出かけたりされた。又、高知に住んでいたことのある方には、近隣のグループホームの夏祭りで催される、よさこい踊りを楽しんでもらえるよう支援したこともある。	利用者とは日々かわる現場職員が持っている情報を蓄積していく取り組みや、情報を介護計画につなげていくような取り組み等にも工夫されてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者様一人ひとりがどのような生活スタイルの情報を家族様から情報を収集し日常生活に活かすように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身状態に合わせて過ごしていただくように努めている。テレビ鑑賞時には足を伸ばし楽な姿勢を取っていただいたり、居眠りをされていればさりげなく声掛けを行い居室で休息を取っていただくようにしている。午後から1～2時間程度居室でゆっくり過ごしていただく時間を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画作成時には家族様、主治医、職員から情報収集し介護計画に反映できるように努めている。入居者様と管理者が話し合いを行い介護計画に反映する事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画には、身体機能の維持・向上への支援のほかに、一人ひとりの楽しみごとの目標を採り入れて支援されている。計画の見直しは、基本的に3ヶ月毎に行い、状態変化時には、その都度見直されている。日々の介護記録には、介護計画の支援内容を青字で記入しており、管理者が毎月モニタリングされている。現在は、管理者が、介護計画一連を担当しているが、今後は、職員それぞれ役割を作る等して、一緒に取り組んでいきたいと考えておられた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			併設型の特色を活かし他部署との共同行事を行ったり不穏な入居者様に対しては散歩がてら他部署に行き気分転換になるように援助を行っている。また遠方に住まわれている家族様が面会に来られた際時間を気のせずにゆっくり居室で過ごすように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会議を活かし駐在所、地域ボランティアの方から情報をいただき花火鑑賞や地域の作品展の見学などに参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に協力病院の選択や歯科検診等の説明を行なっている。家族様が都合が悪い時などは職員が通院に付き添う場合もある。また協力病院以外の医療機関が主治医となっている入居者様もあり受診がてら家族様と一緒に家に帰ったり馴染みの場所に出かけたりしている。	
			(外部評価) 今年4月より、協力医療機関の北条病院が在宅療養支援病院となったことから、24時間の対応が可能となった。ご家族には、3月中に管理者から個別に電話で連絡して詳細を説明された。協力医は、往診以外でも事業所に時々立ち寄ってくださって、利用者とお茶を飲みながら話す等、相談しやすい関係にある。又、連携している訪問看護師が、業務以外でも顔を見せてくれることが利用者の安心感につながっているようだ。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協力病院の往診時にきていただいている。また6月より訪問看護ステーションと連携をとり週1回健康チェックを行っている。主治医協力病院看護師、訪問看護師と情報の共有化を行い適切に対応できるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には家族様に連絡して情報を収集したり、面会に行き看護師から状態の説明を受けたりしている。また退院時期が近づいたら退院後の事などを家族様看護師と話合ったりしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期の対応については入居時に家族様に説明している。家族様の意向を主治医に伝え家族様の意向に沿った対応を行なえるようにしている。	
			(外部評価) 今年度は、2名の利用者の看取りを支援した事例がある。おひとりの方は、身寄りのない方でもあり、職員が受診等を支援したり、亡くなる数ヶ月前には、故郷の大洲に他の利用者数名と一緒に出かけ、大州城や富士山のツツジをみたり、肱川流域等をドライブされた。亡くなった時には、他利用者も顔を見てお別れをして、「ようがんばったね」と声をかけられたようだ。その後の運営推進会議時には、看取りの経緯について説明された。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設にAEDを設置しており職員は使用方法などの講習を受けている。また管理者は初期対応が大切である事を話し対応マニュアルを作成している。急変時には訪問看護ステーション協力病院が連携し対応するようになっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火管理者が避難訓練を実施していなかった為担当者を変更。 行動計画書を作成し計画書に沿って避難訓練を行う予定であり、7月に避難訓練を実施する予定である。また緊急時の連絡網は作成している。 (外部評価) 例年、併設事業所と合同で避難訓練を実施するが、今年度は実施に至っていない。事業所は海沿いに立地していることから、地震時には津波を考慮し、数百メートル離れた国道まで避難することになっているが、地区まちづくりコミュニティ会議生活安全部の方からは、「時間がかかるので、法人の建物の3階に避難したほうが良い」とアドバイスいただいた。	立地条件や利用者の状態等を踏まえて、避難訓練を繰り返し行い、すべての職員が避難方法を身につけられるよう、取り組みをすすめていかれることが求められる。緊急連絡網は作成しているが、管理者は今後、「災害時の緊急連絡網や備蓄等についても整えていきたい」と話しておられた。災害対策について、運営推進会議等を活かして取り組みをすすめて、地域との協力体制も築いていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人的な話などの場合は管理者が居室に伺い話を聞くようにしている。入居者様に声をかける際も本人様が以前呼ばれていた声掛けや反応の良い声掛けなど多種多様に对应している。 (外部評価) 職員は、元教員の方に、「先生」とお呼びしたり、利用者の希望や声かけ時の反応を見て、名前で「〇〇ちゃん」と呼ぶ場合もある。般若心経を写経して、お遍路をしている主治医にプレゼントする方や、塗り絵をていねいに仕上げることにこだわる方、グルメ本を見るのが好きな方もおられる。行事や外出のない日には、午前中はレクリエーションで活動して、昼食後は、居室でゆっくり過ごす等、個々の様子を見ながら、メリハリのある過ごし方ができるよう支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者様の表情や仕草声のトーンなどを観察し介護職員が自己決定が行えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 管理者は業務を優先するのではなく介護を優先し丁寧に対 応するように心がけるように職員に話している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 入居者様が服を選ぶ際相談に乗ったり寝癖等できていた際 はさりげなく直すようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事中ゆっくりとしたペースで食事ができるように努め食事 中に話をしながら楽しく食事ができるように努力している。 (外部評価) 法人の栄養士が立てた献立で食材が届くようになっている。 調理は女性職員を中心に交代で行っており、行事食や食べ たい物の希望がある場合には、事業所で食材から用意して 調理されている。調査訪問時には、「そうめんが食べたい」と いう方のリクエストで、職員の知人の大工さんが作った流しそ うめんの道具を使って、皆で楽しんでいた。会話の中から おでん作りも計画されており、「冬季の家族会時に作りたい」 と話しておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事摂取量や水分量を記録把握し職員間で共 有している。また好みの味付けにし水分量が進むように援助 したり好みの飲料を用意したりし水分不足にならないように 努力している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い口腔清潔に努めている。年2回訪問 歯科診療にて口腔チェックを行い必要に応じて治療してい る。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレで排泄できるように対応している。排泄チェック表を分かり易いようにし各職職員が排泄チェック表をもとに声掛けしたり動作や仕草を観察し、排泄援助を行うようにしている。	
			(外部評価) トイレのドアには、大きく「トイレ」と貼り紙をしておられる。昼・夜を問わず、すべての利用者がトイレで排泄できるよう支援されている。便意のみある方は、トイレで排泄できることがご本人の満足感につながっているようだ。夜間、頻回に排尿に起きるため安眠できない方がおり、医師と相談して薬を調整して状態が改善している方もある。排泄チェック表は、便の量や状態を記号化して記録しており、職員間の伝達も記号で報告し合っておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量1日1500mlを摂取できるように援助している。また朝食時牛乳を飲用していただいたり、散歩などを取り入れ便秘の改善に努めている。	
			(外部評価) 特別な理由が無い限り週3回入浴していただくように援助している。基本的に浴槽に浸かっていただくように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(外部評価) 午前と午後に数名ずつ入浴できるよう支援されている。ぬる目で長湯が好みの方、入る順番にこだわる方等、希望をお聞きしながら支援されている。浴槽のふちの高さに合わせて腰掛を取り付け、職員が介助して浴槽に入って温まる方もいる。希望によって同性介助にも対応しておられる。入浴をためらう方もあるが、脱衣所まで来れば、湯船で歌を歌う等して楽しく入浴されるようだ。	
			(自己評価) 入居者様の離床時間に気を配っている。表情や仕草を観察し休憩時間を設けるようにしている。足を伸ばしてゆっくり過ごす機会を作るように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者様の離床時間に気を配っている。表情や仕草を観察し休憩時間を設けるようにしている。足を伸ばしてゆっくり過ごす機会を作るように努めている。	
			(外部評価) 特別な理由が無い限り週3回入浴していただくように援助している。基本的に浴槽に浸かっていただくように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの内服薬の説明書をファイルし副作用や効果を確認し緊急時に持ち出せるようにしている。また内服変更や新規の投薬が開始された場合家族様に連絡し報告するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみやおしぼり巻きなど入居者様の役割が確定しているが心身の状態などを考慮し無理強いしなように管理者は職員に話している。入居者様の好きそうな映画やドラマをHDDやDVDに録画し好きな時に入居者様に見ていただくようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) グループホームの特色として月2回は外出行事を設けるように援助している。また食事中などに外出先の話をしたりしている。今年は入居者様馴染みの神社に初詣に出かけた。 (外部評価) レクリエーション担当の職員が利用者の希望を聞きながら、毎月2回程度外出できるよう、計画を立てておられる。1対1で対応し、数名ずつ交代で外出されている。季節の花の鑑賞やぶどう狩り、花火見物や河川敷のいも炊き、動物園等にも出かけられた。ドライブの途中で発見した滝に興味を持った方があり、今回は、その滝に行ってみることになっている。好みのドリンク剤が買えるドラッグストアへ買い物に出かけたり、うどんがお好きな利用者が多く、うどん店で外食したり、道の駅におやつを食べに行くこともある。会話がきっかけで蛍鑑賞に出かけた際には、手にとまる蛍を見て、「何十年ぶりかな」と喜ばれたようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時に小遣い程度のお金を持って行き買い物を行う事もあるが、外出時以外も必要なものがあれば入居者様と一緒に買い物に出かけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している入居者様もおりいつでも連絡が取れるようにしている。また入居時に面会連絡等の時間制限がない事を随時説明している。 友人と文通されている入居者様もいらっしゃる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節によって掲示物を変更している。また玄関先と廊下に行事の写真を掲示し歩行時などに写真を見て話の話題にしている。湿度温度に注意し快適に過ごしていただくように努めている。	
			(外部評価) 玄関前には、マリーゴールドや色とりどりのポチュラカが咲くプランターが並んでおり、利用者は、ベンチや椅子に座って、ひと休みしながら眺めて楽しんでいる。居間では、職員が空調の調整を小まめに行っており、風の吹き出し口にはレースの布をあて、冷房が直に当たらないよう配慮されていた。年間を通じて感染症予防のため、手すりやドアノブの消毒も徹底されている。壁面には、行事写真や利用者と職員が一緒に作った紫陽花の貼り絵の作品が飾られていた。行事や外出のない日には、テレビ体操やリハビリを兼ねて赤白の旗揚げ、手首を使う洗濯バサミゲームを行っておられる。マッサージチェアにかかったり、洗濯たみする方や、シール貼り等、職員の手伝いをしてくださる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースで個々の入居者様の過ごす場所が確定している。気の合った入居者様同士が話し込まれる事もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 更衣時に座りこんで更衣できるように一部畳を使用している入居者様お孫様や子供の写真を飾っている方、趣味の俳句を居室に掲示し心地よく過ごしていただくように努めている。	
			(外部評価) 毎朝起床時に、職員が居室の窓を開放して自然の風を入れて、換気されている。畳を敷いている方は、以前からの習慣もあり、畳に座ってゆっくり着替えをされる。毎日、日記を書いたり、仏壇の水を替えて手を合やす方もいる。壁にお孫さんの手紙や俳句、塗り絵の作品を飾っている方も見られた。お城の好きな方はお城の写真集を見たり、又、文庫本を読んで過ごしたり、テレビやラジオを楽しまれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレに手すりを設置し安全に移動できるようにしている。歩行時には職員が必ず付き添い転倒防止に努めている。	